

GIGA×情報活用能力の育成

自己紹介

研究キーワード：思考力育成、情報教育、総合的な学習の時間

思考スキル、シンキングツール、学習環境デザイン

泰山 裕（たいざん ゆう）

- ・ 中京大学 教養教育研究院 教授
- ・ NHK 総合的な学習の時間「ドスルコスル」「地球は放置しても育たない」 番組協力者
- ・ 文部科学省 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編
学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者
- ・ 文部科学省 「評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究（総合）」 調査協力者
- ・ 文部科学省 「総合的な学習の時間指導資料（小学校）」 作成協力者
- ・ 未来の学びコンソーシアム 「未来の学びプログラミング教育推進月間」 指導案作成協力者
- ・ 文部科学省 「次世代の教育情報化推進事業」 企画検証委員
- ・ 文部科学省 「情報活用能力調査の今後の在り方に関する調査研究」 企画推進委員
- ・ 文部科学省 「教育の情報化に関する手引」 執筆協力者
- ・ 国立教育政策研究所 「学習科学のアプローチによる全国学力・学習状況調査
「教科に関する調査」の質的向上に関する分析」 検証委員
- ・ 文部科学省 「教育研究開発企画評価会議」 協力者



情報活用能力とは…

〇〇の〇〇となる**資質・能力**

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

情報活用能力とは…

学習の基盤となる資質・能力

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

学習の基盤となる資質・能力

言語能力

情報活用能力

問題発見
・ 解決能力

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

学習の基盤となる資質・能力



先生の指示が理解できる

静かに座って話を聞ける

先生の話
自分なりに解釈しながら聞ける

黒板をきちんとノートに写せる

自分の考えを全体に話せる

時間通りに行動できる

先生が情報を整理して伝えてくれる授業における基盤

リーディングDXスクール事業

開学習会

学習の基盤となる資質・能力

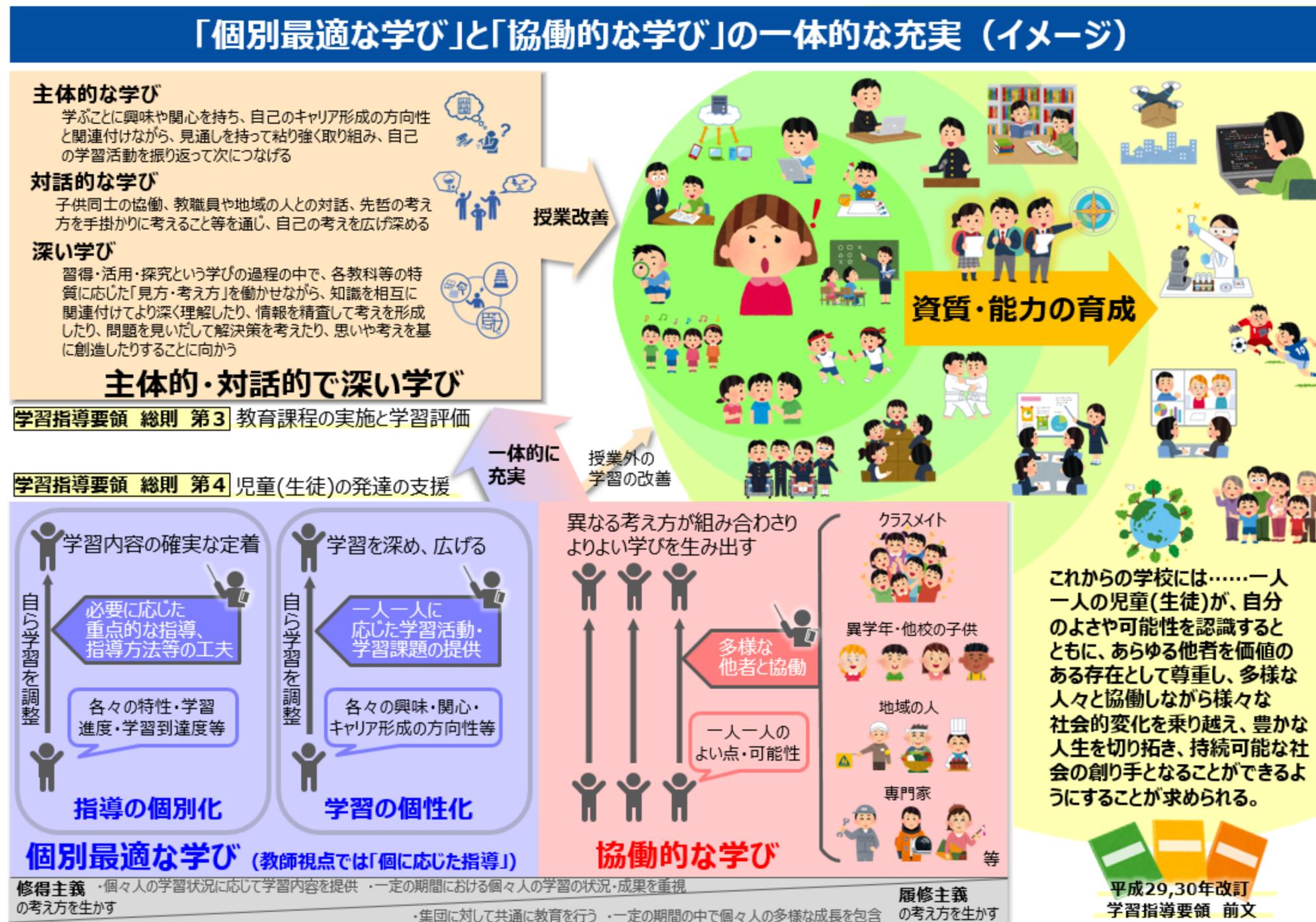


リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

いま、求められている”学習”

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiounen/mext_01542.html



※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

いま、求められている”学習”

経済産業省（2022） 未来人材ビジョン <https://www.meti.go.jp/press/2022/05/20220531001/20220531001-1.pdf>

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル※	1.09
意欲積極性	1.09
：	：

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性※	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
：	：

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

(注) 各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。

(出所) 2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究Ⅱ」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum “The future of jobs report 2020”, Hasan Bakhshi et al., “The future of skills: Employment in 2030”等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。

いま、求められている”学習”

平成29・30・31年改訂 学習指導要領 周知・広報 リーフレット

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/14/1413516_001_1.pdf

学んだことを人生や
社会に生かそうとする

学びに向かう力、
人間性など



実際の社会や
生活で生きて働く

知識及び技能

未知の状況にも
対応できる

思考力、判断力、
表現力など

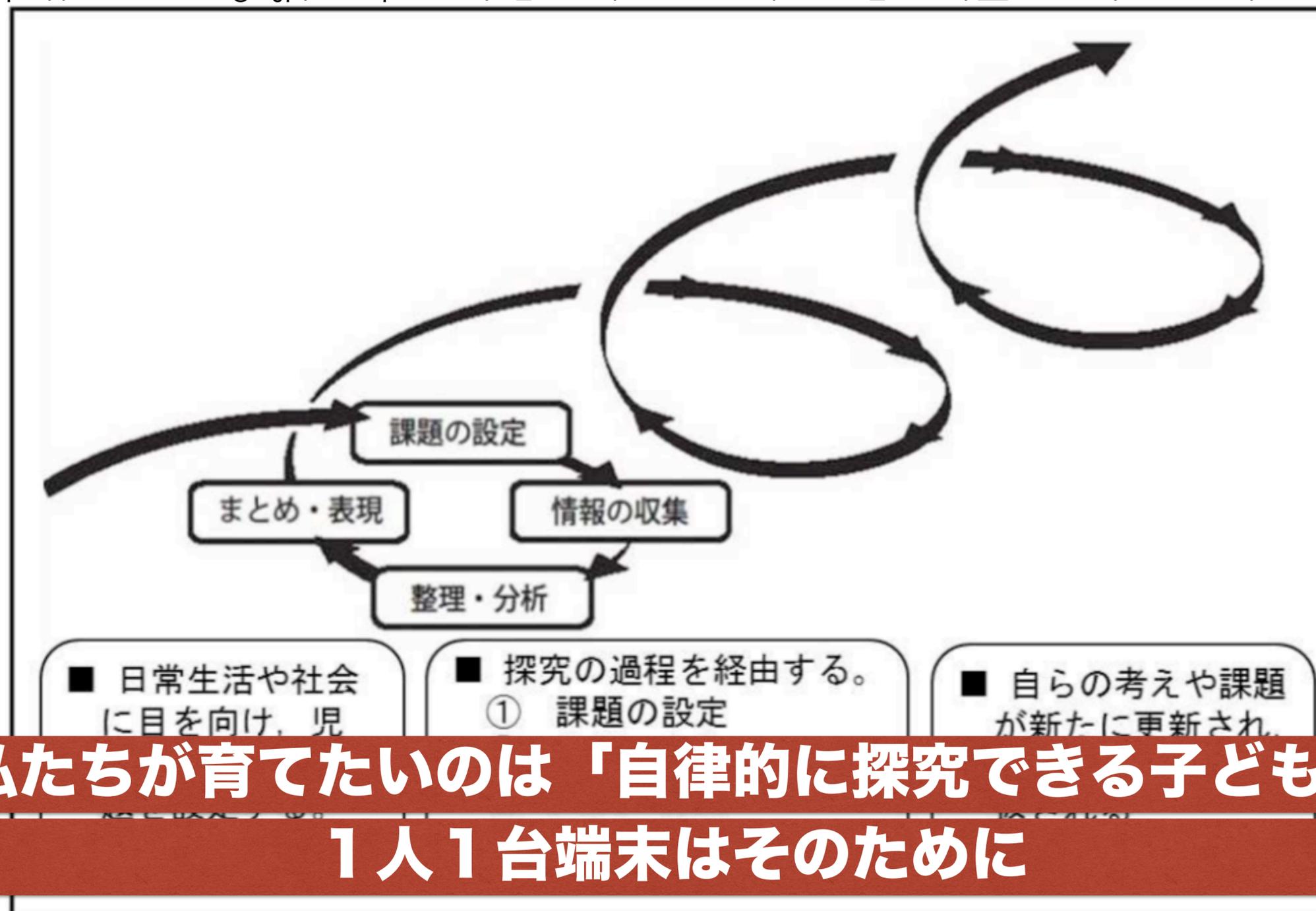
社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、

三つの力をバランスよく育みます。

いま、求められている”学習”

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_013_1.pdf



私たちが育てたいのは「自律的に探究できる子ども」

1人1台端末はそのために

Xスクール事業

開学習会

いま、求められている”学習”

1. いつかは自分で学べる大人になってほしい
2. 先生の言うとおりでなく自分なりに理解して学びを進める
3. でも、1人1人学びやすさやスピードが違う
4. 授業はそれぞれに最適な学びになっていく

リーディングDXスクール事業

「1人1人の子供が最適に深く学ぶ」を前提とする

学習会

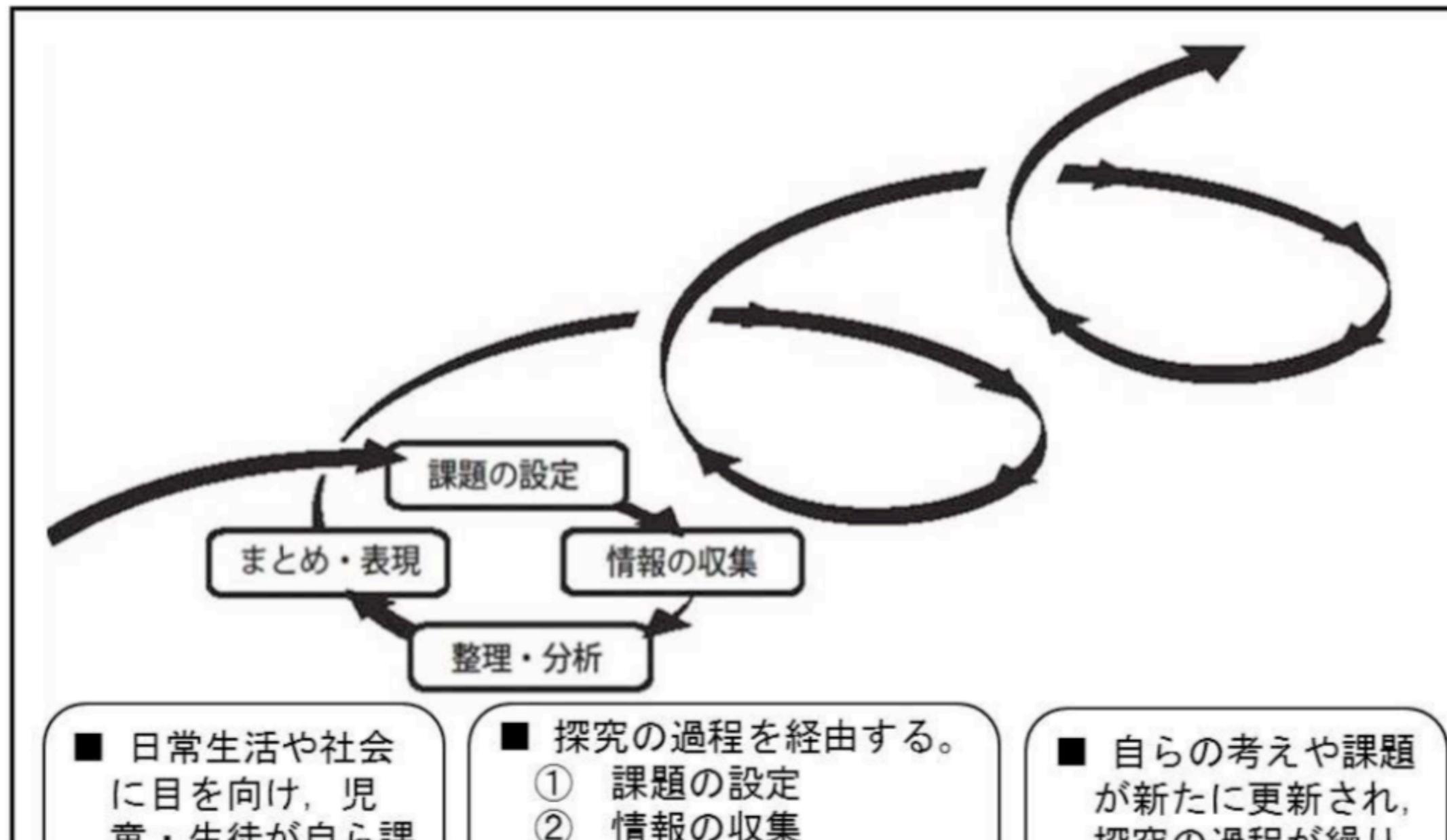
本動画で紹介されている内容は、令和5年3月時点のものです。

GIGAスクール構想

1人1台端末の日常的な活用

(中学校編)

いま、求められている”学習”



あのような学びの”基盤”となるのは？

chatに思いつく限り入力してみます

情報活用能力とは

情報の収集	情報収集の仕方, 情報のクロスチェック
整理・分析	比較する能力, 関連付け方を知っている
まとめ・表現	教科書が「まとめ・表現」のモデルだと共通認識している, 表現方法等の情報活用能力
基本操作等	自分の考えをアウトプットするために思考を止めないタイピング能力
態度等	情報モラル, 失敗を恐れず、チャレンジする力, 授業を受け身ではなく主体的に考える時間と捉える態度, 人の真似をすることが悪ではなく、参照は〇だと感じる
そのほか	やり方は真似しても中身をオリジナルにしようという前向きさ, 学級経営・支事的風土→心理的 安全性, 自己調整力が基盤

情報活用能力とは

情報の収集	情報収集の仕方, 情報のクロスチェック
整理・分析	比較する能力, 関連付け方を知っている
まとめ・表現	教科書が「まとめ・表現」のモデルだと共通認識している, 表現方法等の情報活用能力
基本操作等	自分の考えをアウトプットするために思考を止めないタイピング能力
態度等	情報モラル, 失敗を恐れず、チャレンジする力, 授業を受け身ではなく主体的に考える時間と捉える態度, 人の真似をすることが悪ではなく、参照は○だと感じる
そのほか	やり方は真似しても中身をオリジナルにしようという前向きさ, 学級経営・支事的風土→心理的安全性, 自己調整力が基盤

情報活用能力とは

世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力

学習指導要領 解説 総則編

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

情報活用能力とは

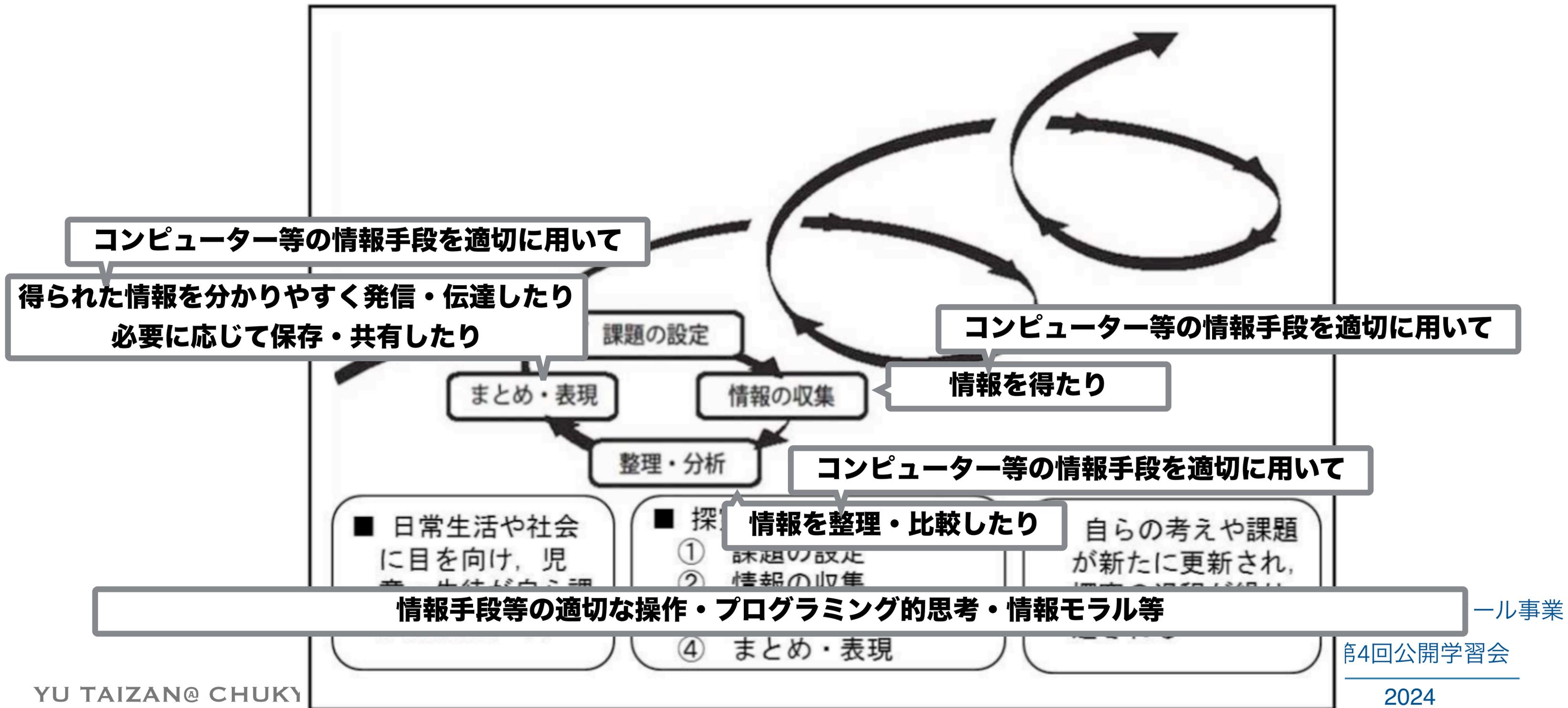
学習活動において必要に応じて

- コンピュータ等の情報手段を適切に用いて
- 情報を得たり、
- 情報を整理・比較したり、
- 得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、
- 必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、

さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる

- 情報手段の基本的な操作の習得や、
- プログラミング的思考、
- 情報モラル等に関する資質・能力等も含むものである。

情報活用能力とは



探究的な学習過程と情報活用能力

分類	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	想定される学習内容	
A 知識及び技能	①情報技術に関する技能	a コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作	キーボードなどによる文字の正しい入力方法	キーボードなどによる文字の正確な入力	キーボードなどによる十分な速さで正確な文字の入力	効率を考えた情報の入力	
		b 電子ファイルの呼び出しや保存	電子ファイルの検索	電子ファイルのフォルダ管理	電子ファイルの運用(圧縮/パスワードによる暗号化、バックアップ等)	電子ファイルの適切な運用(クラウドの活用や権限の設定等)	
		c 画像編集・ペイント系アプリケーションの操作	映像編集アプリケーションの操作	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 <ステップ4と同じ>	
	②情報と情報技術の特性の理解	d		インターネット上の情報の閲覧・検索	電子的な情報の送受信やAND、ORなどの論理演算子を用いた検索	クラウドを用いた協働作業 <ステップ4と同じ>	
		a		情報の基本的な特徴	情報の特徴	情報の流通についての科学的な理解	
		b			情報を伝える主なメディアの特徴	情報を伝えるメディアの科学的な理解 ※1	
		c			表現、記録、計算の原理・法則	表現、記録、計算の科学的な理解 ※2	
		d	コンピュータの存在	身近な生活におけるコンピュータの活用	社会におけるコンピュータの活用	社会におけるコンピュータや情報システムの科学的な理解	
		e		コンピュータの動作とプログラムの関係	手順とコンピュータの関係	情報のデジタル化や処理の自動化の科学的な理解	
	③記号の組合せ方の理解	f			情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組み	情報通信ネットワークの構成と科学的な理解 ※3	
		g			情報のシステム化の基礎的な仕組み	情報のシステム化の科学的な理解(コンピュータや外部装置の仕組みや特徴等)	
		a	大きな事象の分解と組み合わせの体験	単純な繰り返し・条件分岐、データや変数などを含んだプログラムの作成、評価、改善	意図した処理を行うための最適なプログラムの作成、評価、改善	問題発見・解決のための安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等	問題発見・解決のためのプログラムの制作とモデル化 ※4
B 思考力・判断力・表現力等	①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解	b	手順を図示する方法	図示(フローチャートなど)による単純な手順(アルゴリズム)の表現方法	アクティビティ図等の統一モデリング言語によるアルゴリズムの表現方法	アクティビティ図等による適切なアルゴリズムの表現方法	
		a	身近なところから様々な情報を収集する方法	調査や資料等による基本的な情報の収集の方法	調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法	情報通信ネットワークなどからの効果的な情報の検索と検証の方法	情報通信ネットワークから得られた情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
		b				統計的な調査の設計方法	統計的な調査の設計方法
	②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	c	共通と相違、順序などの情報と情報との関係	考えと理由、全体と中心などの情報と情報との関係	原因と結果など情報と情報との関係	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係	主張と論拠、主張とその前提や反証、個別と一般などの情報と情報の関係
		d		情報の比較や分類の仕方	情報と情報との関係付けの仕方	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方	推論の仕方、情報を重要や抽象度などによって階層化して整理する方法
		e	簡単な絵や図、表やグラフを用いた情報の整理の方法	観点を決めた表やグラフを用いた情報の整理の方法	目的に応じた表やグラフを用いた情報の整理の方法	表やグラフを用いた統計的な情報の整理の方法	統計指標、回帰、検定などを用いた統計的な情報の整理・分析の方法
		f	情報の大体を捉える方法	情報の特徴、傾向、変化を捉える方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	目的に応じて情報の傾向と変化を捉える方法	目的に応じて統計を用いて客観的に情報の傾向と変化を捉える方法
		g	情報を組み合わせて表現する方法	自他の情報を組み合わせて表現する方法	複数の表現手段を組み合わせて表現する方法	情報を統合して表現する方法	情報を階層化して表現する方法
		h	相手に伝わるようなプレゼンテーションの方法	相手や目的を意識したプレゼンテーションの方法	聞き手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーション方法	Webページ、SNS等による発信・交流の方法	Webページ、SNS、ライブ配信等の発信・交流の方法
	③情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	i			安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法	安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法 <ステップ4と同じ>	
		a	問題解決における情報の大切さ	目的を意識して情報活用の見通しを立てる手順	問題解決のための情報及び情報技術の活用の計画を立てる手順	条件を踏まえて情報及び情報技術の活用の計画を立てる手順	モデル化やシミュレーションの結果を踏まえて情報を活用する計画を立てる手順
		b	情報の活用を振り返り、良さを確かめること	情報の活用を振り返り、改善点を見いだす手順	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見いだす手順	情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順	情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し改善する手順
a		①情報技術の役割・影響の理解	a 情報社会での情報技術の活用	情報社会での情報技術の働き	情報システムの種類、目的、役割や特性	情報システムの役割や特性とその影響、情報デザインが人や社会に果たしている役割	
b				情報化に伴う産業や国民生活の変化	情報化による社会への影響と課題	情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響	
a		人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があること	自分の情報や他人の情報の大切さ	情報に関する自分や他者の権利	情報に関する個人の権利とその重要性	情報に関する個人の権利とその重要性 <ステップ4と同じ>	
C 学びに向かう力、人間性等	①責任をもって適切に情報を扱うこと	b		通信ネットワーク上のルールやマナー	社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていること	情報に関する法規や制度	
		c	コンピュータなどを利用するときの基本的なルール	生活の中で必要となる基本的な情報セキュリティ	情報を守るための方法	情報セキュリティの確保のための対策・対応	情報セキュリティの確保のための対策・対応の科学的な理解
		d			情報技術の悪用に関する危険性	仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性	仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの科学的な理解
	②情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	e		情報の発信や情報やりとりする責任	発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響	情報社会における自他の責任や義務	情報社会における自他の責任や義務の理解
		f			情報メディアの利用による健康への影響	健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方	健康の面に配慮した日常的な情報メディアの利用方法
		a	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	体験や活動から疑問を持ち、解決の手順を見通したり分解して、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する	収集した情報から課題を見つけ、解決に向けた活動を実現するために情報の活用を見通しを立て、実行する	問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試作等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する	問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用の計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する
		b	必要な情報を収集、整理、分析、表現する力	身近なところから課題に関する様々な情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理する	調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つけたり、観点を決めた簡易な表やグラフ等や習得した「考えるための技法」を用いて情報を整理する	目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等組み合わせながら情報収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理する	調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせて活用したりして整理する
		c	新たな意味や価値を創造する力	情報の大体を捉え、分解・整理し、自分の言葉でまとめる	情報を抽象化するなどで全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見いだす	情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見つけ他との転用や応用を意識しながら問題に対する解決策を考察する	目的に応じ、情報と情報技術を活用して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対する多様な解決策を明らかにする
		d	自らの情報活用を評価・改善する力	相手を意識し、わかりやすく表現する	表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせて適切に表現する	目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせて表現し、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現する	目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信、創造する
	③情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	e	問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる	自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いのかを考える	情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考える	情報及び情報技術の活用を効率化する視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかを論理的に考える	問題の効果的な解決に向け、情報やメディアの特性や情報社会の在り方等の諸条件を踏まえ、解決に向けた情報活用の計画を複数立案し、他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ねながら実行する
		a	①多角的に情報を検討しようとする態度	事象と関係する情報を見つけようとする	情報を構造的に理解しようとする	事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする	事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする <ステップ4と同じ>
		b		新たな視点を複数から捉えようとする	物事を批判的に考察しようとする	物事を批判的に考察し判断しようとする	物事を批判的に考察し新たな価値を見いだそうとする
a		②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	問題解決における情報の大切さを意識して行動する	目的に応じて情報の活用を見通しを立てようとする	複数の視点を想定して計画しようとする	条件を踏まえて情報及び情報技術の活用の計画を立て、試行しようとする	
b			情報の活用を振り返り、良さを捉えようとする	情報の活用を振り返り、改善点を見いだそうとする	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見いだそうとする	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見いだそうとする	
c			情報の活用を振り返り、良さを捉えようとする	情報の活用を振り返り、改善点を見いだそうとする	情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする	情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し改善しようとする	
④情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	a	人の作った物を大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする	自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする	情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする	情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする	情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする <ステップ4と同じ>	
	b		コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする	通信ネットワーク上のルールやマナーを踏まえ、行動しようとする	社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを踏まえ、行動しようとする	情報に関する法規や制度の意義を踏まえ、適切に行動しようとする	
	c			生活の中で必要となる情報セキュリティについて踏まえ、行動しようとする	情報セキュリティの確保のための対策・対応の必要性を踏まえ、行動しようとする	情報セキュリティを確保する意義を踏まえ、適切に行動しようとする	
	d				仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を踏まえ、行動しようとする	仮想的な空間の保護・治安維持のためのサイバーセキュリティの意義を踏まえ、適切に行動しようとする	
	e				発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする	情報社会における自他の責任や義務を踏まえ、適切に行動しようとする	
	e					情報社会における自他の責任や義務を踏まえ、適切に行動しようとする	

基本的な操作等
プログラミング
問題解決・探究における情報活用
情報モラル・情報セキュリティ
情報モラル・情報セキュリティ
問題解決・探究における情報活用
プログラミング
情報モラル・情報セキュリティ

情報活用能力の体系表例 (IE-Schoolより)

情報活用能力の体系表

		分類
A. 知識及び技能	1	<p>情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能</p> <p>①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解</p>
	2	<p>問題解決・探究における情報活用の方法の理解</p> <p>①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解</p>
	3	<p>情報モラル・情報セキュリティなどについての理解</p> <p>①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解</p>
B. 思考力、判断力、表現力等	1	<p>問題解決・探究における情報を活用する力 (プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)</p> <p>事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力</p> <p>①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力</p> <p style="text-align: right;">等</p>
C. 学びに向かう力、人間性等	1	<p>問題解決・探究における情報活用の態度</p> <p>①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度</p>
	2	<p>情報モラル・情報セキュリティなどについての態度</p> <p>①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度</p>

情報活用能力で想定される学習内容

情報機器の
操作技能

頭の外での
情報の操作方法

問題解決や
探究における
情報活用
(プログラミングも含む)

頭の中での
情報の操作方法

情報モラル・
情報セキュリティ

情報操作のときに
注意すべきこと

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

情報活用能力

児童生徒の情報活用能力の状況は？

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

情報活用能力調査（令和3年度実施）

目的

児童生徒が「**情報活用能力**※」をどの程度身に付けているか測定することを目的とした調査

※具体的には、**学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力**
(情報手段の基本的な操作の習得・プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティ・統計等に関する資質・能力等も含む)

調査方法

- ◆実施時期：令和4年1月～2月
- ◆調査形態：児童生徒を対象として、キーボードによる文字入力課題、問題調査、児童生徒質問調査を実施
学校を対象として、学校質問調査を実施
※ いずれの調査もCBT（Computer Based Testing）で実施
- ◆調査時間：文字入力課題3分、調査問題30分×2、児童生徒質問15分（ガイダンスの時間を含め、2単位時間で実施）
- ◆対象学年（人数）：小学校第5学年（4,486人）、中学校第2学年（4,846人）、高等学校第2学年（4,887人）
計14,219人 ※ 実施時期が年度末であることから卒業時期などを考慮
- ◆対象学校（学級）：小学校161校、中学校162校、高等学校156校 計479校（各校1学級で実施）
※ 国公私別、学校規模、学科等に基づき、学校を抽出し、それぞれの学校の対象学年から1学級を無作為に抽出

調査問題

- 全校種共通に出題した問題（138問）と発達段階に合わせて中・高等学校のみに出題した問題（38問）
- 全員に同一の問題を出題するのではなく、児童生徒ごとに異なる問題セットを出題
- 今後の調査でも使用することから、調査問題は基本的に非公表※
※ 調査に関係する有識者の意見を参考とし、特徴的な調査問題を例として本資料3～5ページ目に掲載
※ 公表された問題の補填及び情報化の進展等を踏まえ、今後の調査に向けて新規問題を作成予定
- IRT（Item Response Theory、項目反応理論）で分析
※ IRTとは、受検者の能力を測る統計的手法の一つで、異なる問題セットに解答した児童生徒の能力を同一尺度で得点化することができる。また、今後の調査でも結果を同じ尺度で比較可能である。
※ 今後の調査の公平性を担保するために、分析結果等については実施校に返却しない。

目的 児童生徒のICT機器（端末）の基本的な操作等の実態を確認

- 概要**
- 解答者数：小5（4,480人）、中2（4,837人）、高2（4,882人）
 - 出題文章：総文字数285文字（ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット等の組合せ）
※全校種に同じ課題文を出題
 - 入力時間：3分間

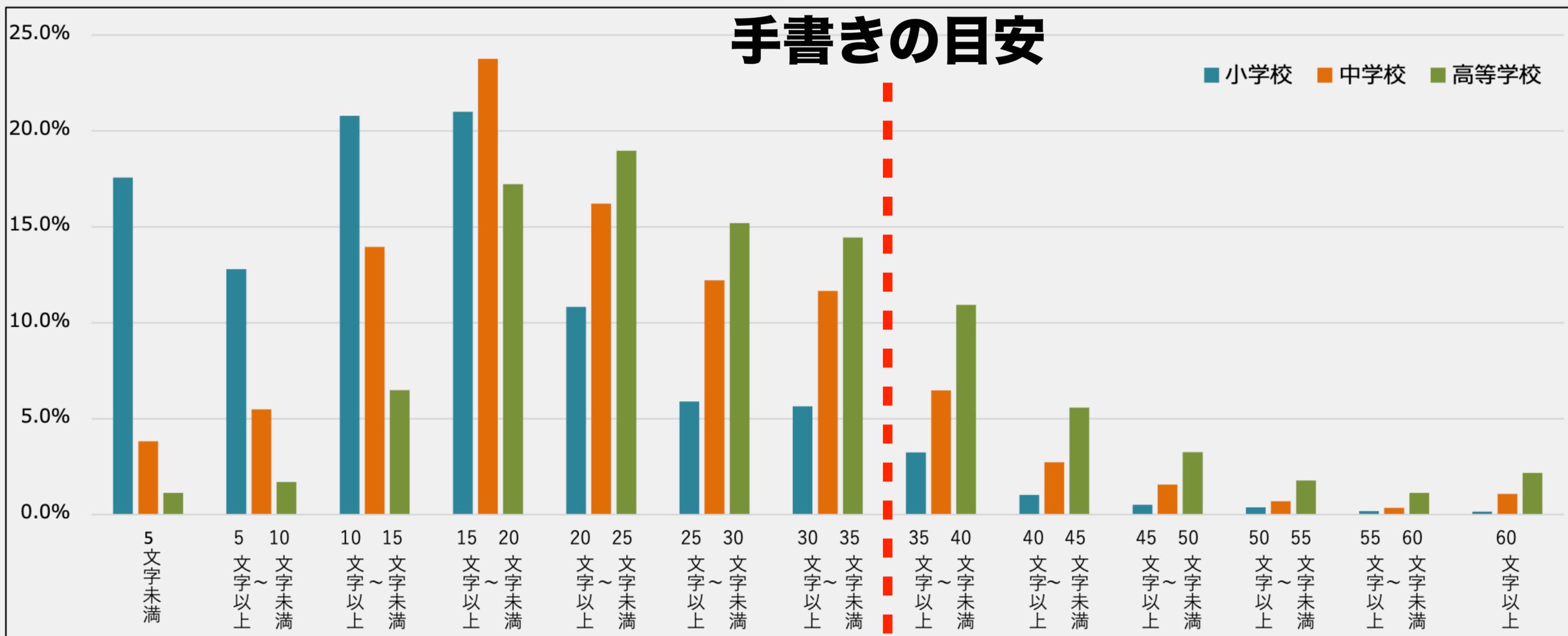
結果のポイント

- ✓ キーボードによる1分間あたりの平均文字入力数は、小学校 15.8文字、中学校 23.0文字、高等学校 28.4文字であった。
- ✓ キーボードによる1分間あたりの文字入力数が15文字未満の児童生徒の割合は、小学校 51.2%、中学校 23.3%、高等学校 9.3%であった。

1分間あたりの文字入力数	小学校	中学校	高等学校
平均値（文字）	15.8	23.0	28.4

文字入力数	5文字未満	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~55	55~60	60文字以上
小学校 (%)	17.6	12.8	20.8	21.0	10.8	5.9	5.6	3.2	1.0	0.5	0.4	0.2	0.2
中学校 (%)	3.8	5.5	14.0	23.8	16.2	12.2	11.7	6.5	2.7	1.6	0.7	0.4	1.1
高等学校 (%)	1.1	1.7	6.5	17.2	19.0	15.2	14.4	10.9	5.6	3.3	1.8	1.1	2.2

1分間あたりの文字入力数の分布 (%)



レベル ※1	各レベルの児童生徒の割合 ※2			調査の結果を基に想定できる各レベルの児童生徒が身に付けている情報活用能力の例 ※3
レベル9 (669点以上～)	高	9.7%		複雑な状況での操作 情報の科学的な理解に基づいた 真正な文脈で問題を解決する
	中	1.9%		
	小	0.1%		
レベル8 (622点～669点)	高	14.5%		目的に応じた操作 児童生徒主体で教科の学びを深める →中高の山
	中	5.9%		
	小	0.4%		
レベル7 (572点～622点)	高	20.4%		指示通りの操作 教師主導で教科の学びを深める →小学生の山
	中	13.1%		
	小	1.8%		
レベル6 (524点～572点)	高	21.9%		① アプリケーション、システム、デジタルの特徴を理解している ② 他人の主張に関する根拠を見つけることができる / 複数の ③ 反復処理を含むプログラムの実行結果を想定しながら修正 ④ 不適切な情報を受信せずに、個人情報や著作権を保護しな
	中	21.9%		
	小	6.4%		
レベル5 (480点～524点)	高	17.4%		① 全角・半角・英字・数字・記号などを使い分けて入力でき ② 複数の条件に応じて、複数の情報を選択できる / 目的に応 ③ 複数の条件分岐を含むプログラムを理解している / 目的に ④ 不適切な情報発信を指摘できる
	中	24.9%		
	小	15.6%		
レベル4 (417点～480点)	高	9.3%		① ホームページ等を管理するためのアカウント権限を設定できる / ファイルサイズの削減などができる ② 信頼できる根拠を選択できる / データの矛盾点を指摘できる ③ 目的に応じて、反復処理のプログラミングができる ④ コンピュータウイルスの感染対策ができる / 公開してはい
	中	17.8%		
	小	25.8%		
レベル3 (381点～417点)	高	4.1%		① 指定されたフォルダへファイルに名前を付けて保存できる ② 目的に応じて、情報を図、表、グラフに示すことができる ③ 分岐処理のプログラムをフローチャートに表すことができる ④ コンピュータウイルス感染の原因について理解している
	中	9.2%		
	小	23.6%		
レベル2 (329点～381点)	高	1.8%		① 指示に従って、アプリケーションを選択し、操作ができる ② 複数のページに書かれている情報を要約できる ③ 簡単な分岐処理のプログラミングができる ④ 自分の情報を守ったり、健康に留意したりしながら情報端末を使うことができる
	中	3.9%		
	小	15.9%		
レベル1 (～329点未満)	高	0.9%		① 指定されたフォルダを選択できる / ファイルの共有範囲を設定できる ② 複数の条件に応じて、情報を選択し、見いだした特徴を基 ③ 条件に応じてフローチャートを修正したり、情報処理の手 ④ SNSの特性や著作権違反となる行動を理解している
	中	1.3%		
	小	10.4%		
				① 基本的な操作等 ② 問題解決・探究における情報活用 ③ プログラミング ④ 情報モラル・セキュリティ

情報活用能力

児童生徒の情報活用能力をどのように育てるか？

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

情報活用能力をどこで育てるか

情報機器の
操作技能

頭の外での
情報の操作方法

問題解決や
探究における
情報活用
(プログラミングも含む)

頭の中での
情報の操作方法

情報モラル・
情報セキュリティ

情報操作のときに
注意すべきこと

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

情報活用能力をどこで育てるか

頭の外での
情報の操作方法

情報機器の
操作技能

頭の中での
情報の操作方法

問題解決や
探究における
情報活用
(プログラミングも含む)

情報操作のときに
注意すべきこと

情報モラル・
情報セキュリティ

知っていると効率的になる、知っていると困る

→取り出して指導, 教科等の学習で活用

情報活用能力をどこで育てるか

頭の外での
情報の操作方法

情報機器の
操作技能

頭の中での
情報の操作方法

問題解決や
探究における
情報活用
(プログラミングも含む)

情報操作のときに
注意すべきこと

情報モラル・
情報セキュリティ

情報をどのように整理分析し，活用するか

→教科等の目標と関連づけた指導

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

情報活用能力の体系表

		分類
A. 知識及び技能	1	<p>情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能</p> <p>①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解</p>
	2	<p>問題解決・探究における情報活用の方法の理解</p> <p>①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解</p>
	3	<p>情報モラル・情報セキュリティなどについての理解</p> <p>①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解</p>
B. 思考力、判断力、表現力等	1	<p>問題解決・探究における情報を活用する力 (プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)</p> <p>事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力</p> <p>①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力</p> <p style="text-align: right;">等</p>
C. 学びに向かう力、人間性等	1	<p>問題解決・探究における情報活用の態度</p> <p>①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度</p>
	2	<p>情報モラル・情報セキュリティなどについての態度</p> <p>①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度</p>

情報活用能力をどこで育てるか

	A-1-①	A-1-②	A-1-③	A-2-①	A-2-②	A-3-①	A-3-②	B	C-1-①	C-1-②	C-2-①	C-2-②
小学校	10	20	15	935	155	15	23	147	299	129	24	13
中学校	5	28	14	587	110	7	27	85	156	126	6	2
高校	16	148	35	1709	391	34	63	276	551	423	89	10

泰山・堀田 (2020) 各教科等で指導可能な情報活用能力とその各教科等相互の関連

- ・ 全ての項目がいずれかの教科等の学習内容と対応づく
- ・ 教科等の学習内容と多く関連づく項目

「A-2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解」 「B 思考力, 判断力, 表現力等」

「C-1 問題解決・探究における情報活用の態度」

リーディングDXスクール事業

情報活用能力を育てるための各教科等の特徴

公開学習会

情報活用能力をどこで育てるか

各教科等で指導可能な情報活用能力の特徴

A-2-①：情報収集、整理、分析、表現、発信の理解（特に多いもの）

- ・ 課題設定， 調査の設計計画：理科， 体育
- ・ 情報収集：社会科
- ・ 整理分析：国語科における「情報と情報の関係の理解」
算数・数学科における「データ活用」の領域
- ・ 表現方法：図画工作， 音楽， 美術， 芸術
- ・ 学習過程の振り返り：体育
- ・ 一連の発揮：総合的な学習/探究の時間

教科等の文脈に応じて「情報活用能力」を育てる

DXスクール事業

第1回公開学習会

情報活用能力

児童生徒の情報活用能力を育てる授業

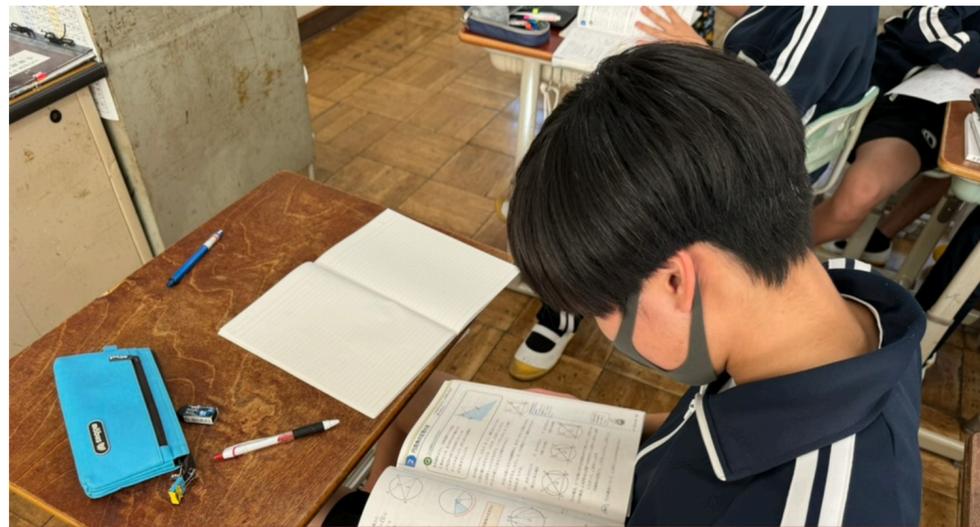
指定校等の実践事例から

リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

個別最適・協働を支える情報活用能力

@壬生町立南犬飼中学校 (R5,R6指定校)

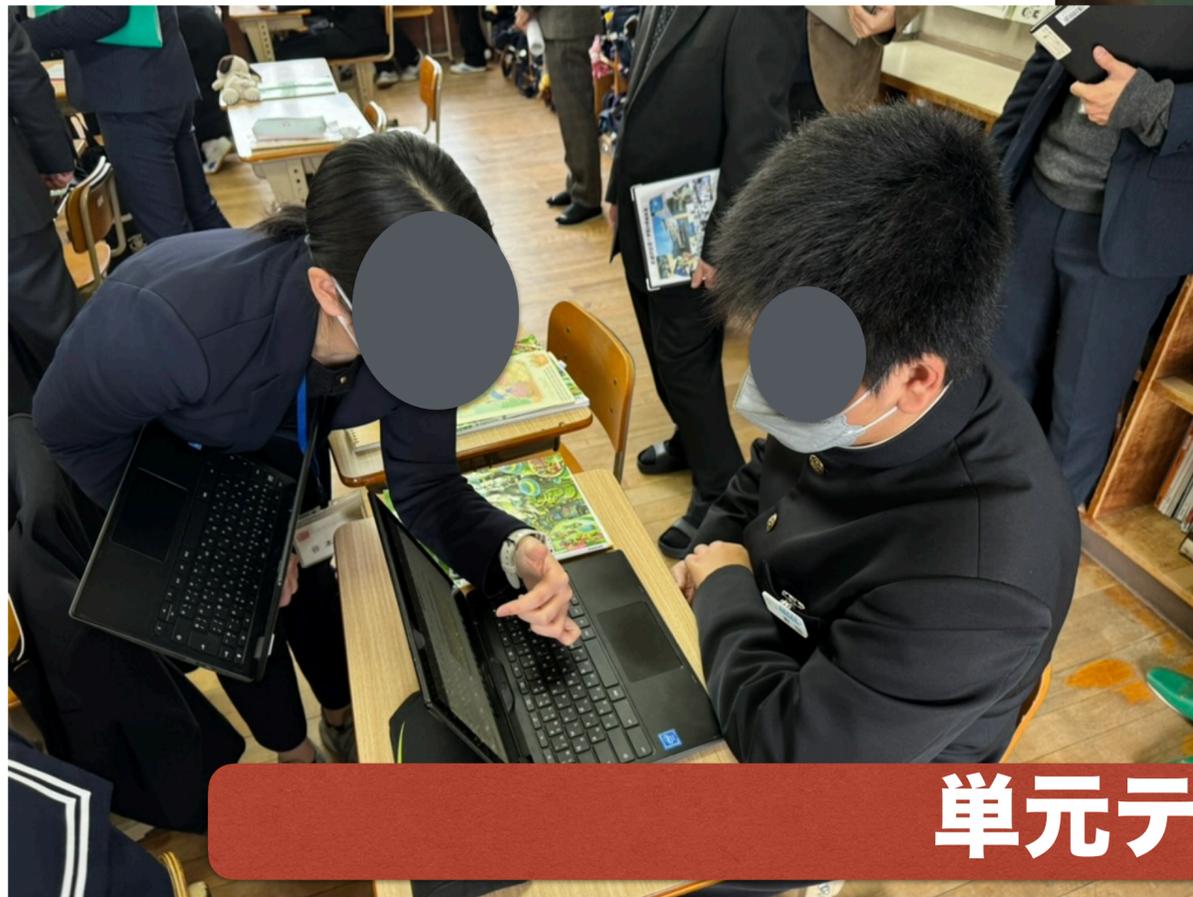


教科の学びを自分（たちで）深めていく

先生は学び方を示す，支援が必要な子に支援する

個別最適・協働を支える情報活用能力

@玉野市立荘内中学校 (R5指定校)



単元テストの対策も自分で進める

情報活用能力を発揮して学ぶ

@壬生町立南犬飼中学校 (R5,R6指定校)



先生に解説してもらおう



教科書をみんなで読み解く

情報活用能力を発揮して学ぶ

@玉野市立荘内中学校 (R5指定校)



2時間目				
名前	日の授業で分かったこと(見通しと比較してどうだったかな)	検証課題	見通し	今日の授業で分かったこと
	利便な道具が生み出されたという予想はあつて、見通しでは、発展する理由を考えてたけど、いろいろな視点で考えるのが大切なのではなかつたかと思つた。新田開発や道具の改良などをして、年費を増やせたということが分かった。協作物を作り域下町などの都で打つていたと	交通路の発展で、社会の変化に目を向け、どのような身分が活躍するようになったか考えをまとめることができる	①移動がしやすくなった。乗りが多くなり遠く生活などを取り入れられるようになった ②移動する人を押す人(人力車を引く人)	
		交通路の発展で、社会の変化に目を向け、どのような身分が活躍するようになったか考えをまとめることができる	①物などを運ぶときに便利になった ②人がとても移動しやすくなつたりした。	江戸・大阪
		交通路の発展で、社会の変化に目を向け、どのような身分が活躍するようになったか考えをまとめることができる	他の場所で育てたり、作った食べ物や、物などを運びやすくなった。移動しやすくなった。	
	mに農具の発展で稲刈りや播種は、年費を増やすため、用水路を通つたり、海や広い沼地を開拓したりして大規模な新田開発を進め、農具の発展	交通路の発展で、社会の		

友達の考え、学習状況から情報を得る

情報活用能力を発揮して学ぶ

@洲本市立大野小学校 (R6指定校)



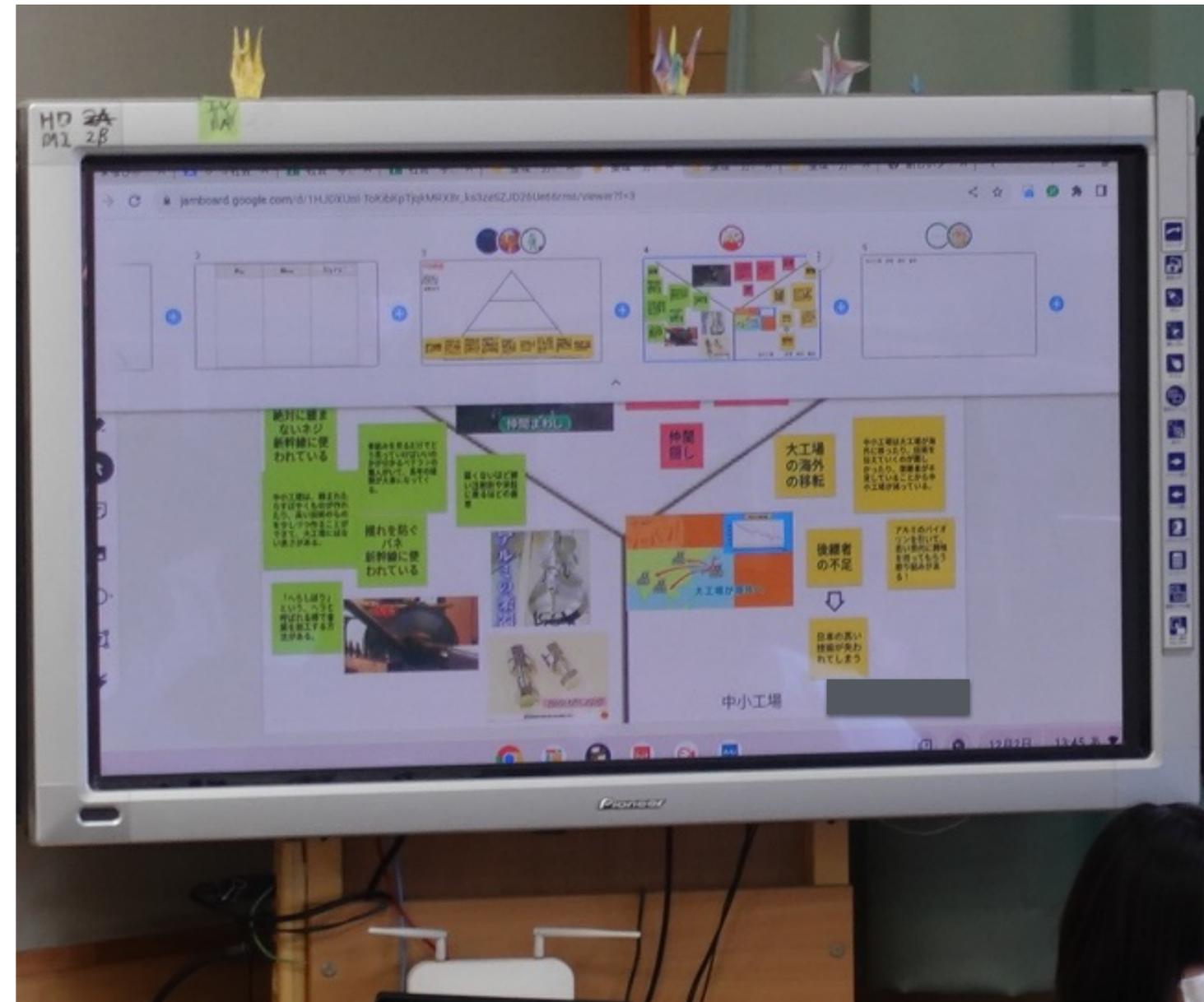
写真で情報を集める



動画から情報を集める

情報活用能力を発揮して学ぶ

@仙台市立錦ヶ丘小学校 (R5指定校)



教科の内容に応じた整理の仕方の指導

方法を選択して整理する

情報活用能力を発揮して学ぶ

@玉野市立荘内小学校 (R5指定校)

自分で「資料の調べ方の復習をして、問題を考え、説明する。」

問題を解くために必要な情報を選んで考える

問題 拓哉さんたちのクラスでは、クラスを3つのチームA、B、Cに分けて、大縄とび大会を開くことになりました。

大縄とび大会のルール
・縄を片手1人、とぶ人10人
・とぶ人が縄の半に入り、いっしょにとぶ。
並び方は、1列でも2列でも自由。
・連続してとんだ回数をもっとも多いチームが勝ち。

次の表は、20日間の練習で、1日ごとにもっとも多くとんだ回数を記録し、その20日間の記録の平均値をまとめたものです。

Aチーム		Bチーム		Cチーム	
日	とんだ回数(回)	日	とんだ回数(回)	日	とんだ回数(回)
①	16	①	20	①	7
②	23	②	23	②	10
③	20	③	31	③	23
④	25	④	30	④	15
⑤	17	⑤	31	⑤	26
⑥	23	⑥	32	⑥	30
⑦	24	⑦	32	⑦	13
⑧	18	⑧	36	⑧	4
⑨	26	⑨	24	⑨	35
⑩	37	⑩	25	⑩	41
				⑪	32
				⑫	28
				⑬	40
				⑭	36
				⑮	15
				⑯	35
				⑰	28
				⑱	45
				⑳	35

20日間の記録の平均値

チーム	A	B	C
平均値(回)	25.2	27.3	27.3

次の問いに答えなさい。

用語集

1 正しいといえる。
2 正しいとはいえない。

条件

平均値

条件



教科の内容に応じた整理の仕方の指導

第4回公開学習会

情報活用能力を発揮して学ぶ

@洲本市立大野小学校 (R6指定校)



わかったことを発表する

YU TAIZAN@ CHUKYO UNIVERSITY

声や身体で表現し、記録する

2024

個別最適・協働を支える情報活用能力

自分の考えをまとめ、交流



名前	アフリカのイメージ	資料からわかること、調べてみたこと	決定してみたいこと	私達にできることや調べたいこと
13	貧困、人口が多そう	昔から病に悩まされていて次第によって病が薄らなくなり貧困になっていった	アフリカについて	
14	貧困、乾燥地帯	乾燥地帯のためアフリカの農業はイネが多い、肉類が多い	農業について	
15	エジプト、貧困、熱帯地、乾燥	GDPランキングの順位は内はほとんどがアフリカの国		なぜ戦争が起こるのか、資源は向に変わっているのか

課題を確認し、学習計画を立てる

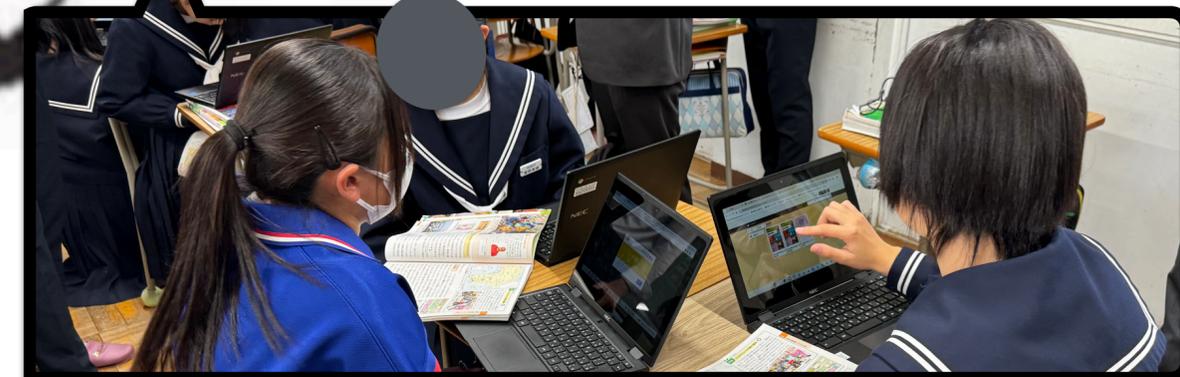
課題の設定

まとめ・表現

情報の収集

(友達を参考にしながら) 整理

整理・分析

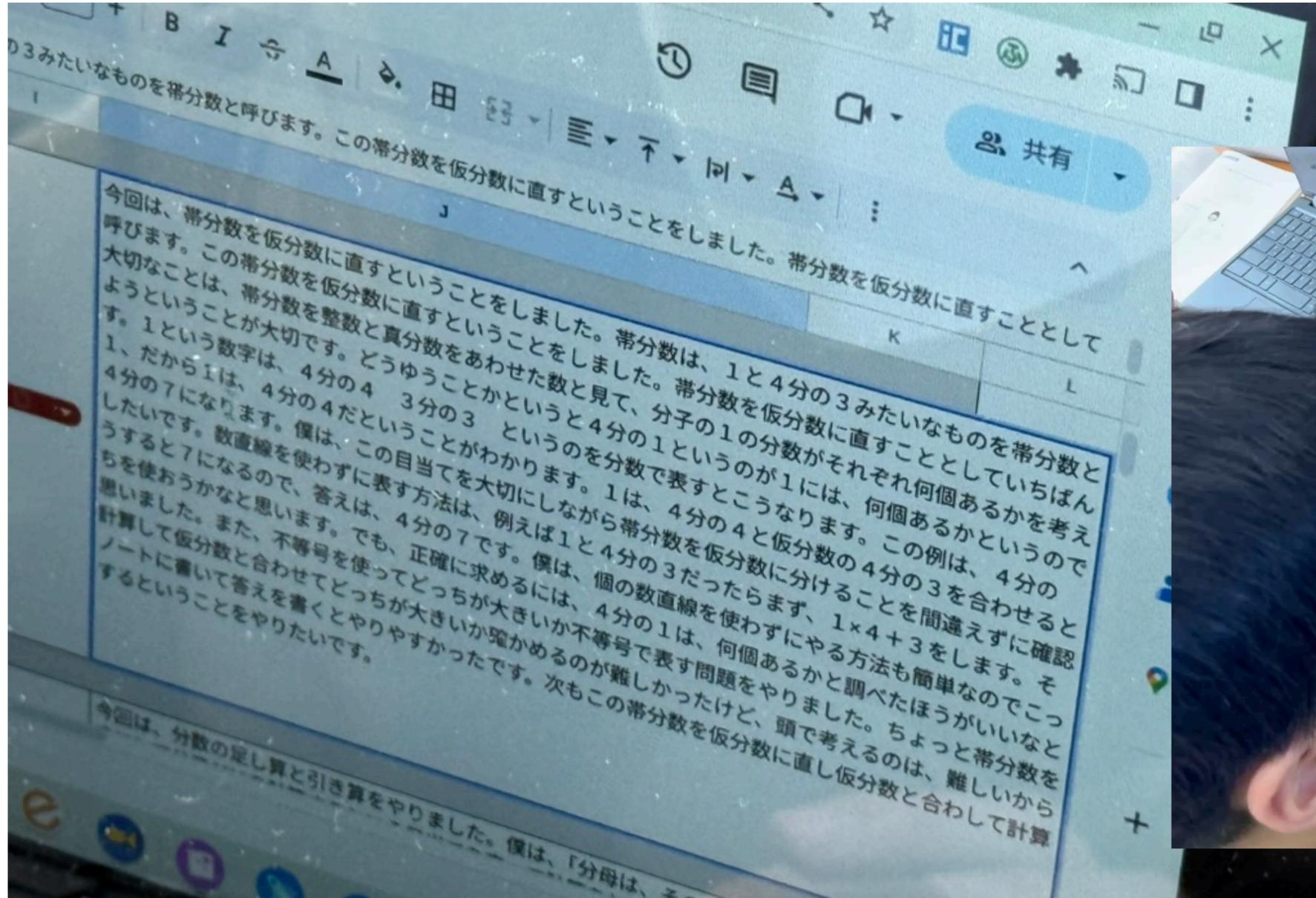


教科書、ネット、友達から
リーディングDXマクル事業
第4回公開学習会

自分にあった学びを自分で進める基盤

情報活用能力を発揮して学ぶ

@春日井市立勝川小学校 (R5,R6協力校)



学習の振り返り、その基盤となるタイピングスキル
型を教えて、たくさん発揮させる

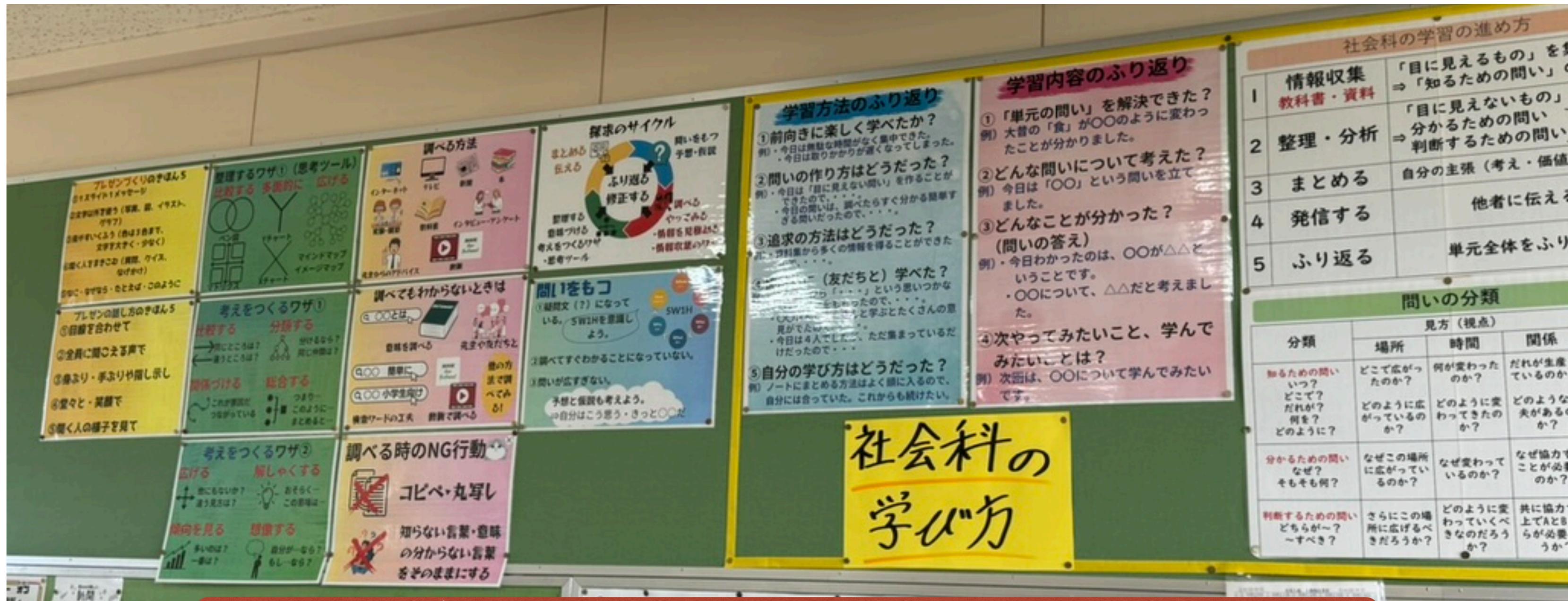
DXスクール事業

公開学習会

2024

情報活用能力を具体的に共有する

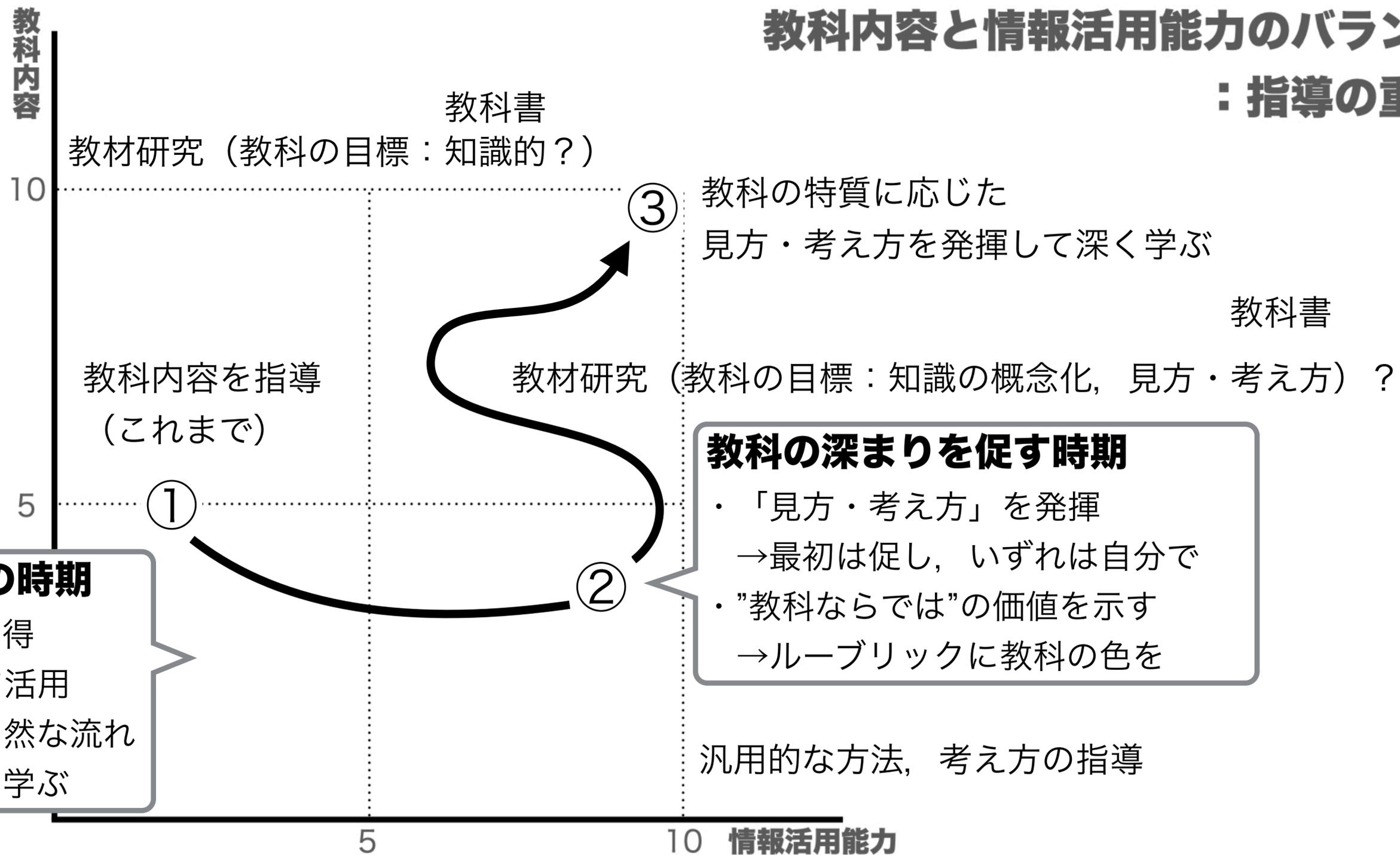
@洲本市立大野小学校 (R6指定校)



学び方, 情報活用能力を鍛える, 発揮させる

情報活用能力を育む授業を実現する

教科内容と情報活用能力のバランス ：指導の重点



情報活用能力を育む授業を実現する

児童生徒主体の学び

個別最適・協働的な学びの実現

先生に時間的余裕を
同じ道具で慣れる

先生と児童生徒の
学びは相似形

先生の働き方

端末を使って効果的・効率的に

先生の学び

試行錯誤を繰り返す、少しずつ進める

働き方≒学び方

- **学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力**

- 情報活用能力が発揮されるような学習に
特に「情報の収集, 整理・分析, まとめ・表現」の方法を

- **子どもに学習の主導権を（少しずつ）渡す**

- 教科等を通しての指導と発揮の繰り返しで徐々に自覚的に
- 1回教えたらできるようになるわけではないから繰り返し使う機会を
- 学習方法として意識させる

- **情報活用能力を育成する時期と発揮させる時期**

- 最初からはうまくいかないから, 学びの深まりをすぐに期待しない
- まずは情報活用能力を発揮して自分で学べること
- 次に教科等の学びで”適切に・効果的に”情報活用能力を発揮
- 先生の失敗を許容する学校, 行政の役割

おわり

ご質問・ご意見をお願いいたします

思考スキル、シンキングツールについて

授業設計への活用

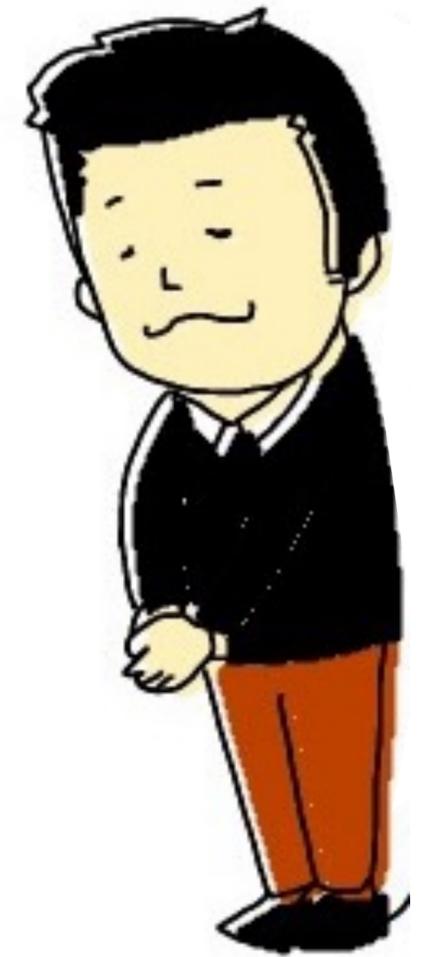
「思考力」をどう捉えるのか

他校での取り組み

などなど

メール：taizan@taizan-lab.net

思考ツールの活用例など：<https://taizan-lab.net>



リーディングDXスクール事業

第4回公開学習会

「リーディングDXスクール」は、2年目に

 リーディング
DXスクール

 リーディング
DXスクール一覧

 生成AI
パイロット校一覧

 公開授業・
公開学習会予定

 取組紹介

 指定校実践事例・
動画

 特集ページ

 文部科学省

 キーワードによる検索



メルマガ登録

イベント情報や各地の実践
事例情報をお届けします！

今年度は104地区、256校

「リーディングDXスクール」

リーディング

リーディング

AI 生成AI

公開授業

取組紹介

指定校実践事例

検索

文部科学省

GIGA端末の標準仕様 に含まれている
汎用的なソフトウェアとクラウド環境 を十全に活用し
児童生徒の**情報活用能力の育成** を図りつつ
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 や
校務DX を行い、
全国に好事例を展開 するための事業

具体的な事例はリーディングDXスクール 令和5年度指定校の最終報告・実践動画や...



<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>



取組紹介を参考に



2024.11.19

ICT活用発表会の実施

新地町内の各小・中学校を会場にICT活用発表会が開催され、県内外から多数の教育関係者にお越しいただきました。今年度は、数学科、英語科、保健体育科の授業を公開し、授業後の交流会ではICTを効果的に活用した授業づくりについて意見が交わされました。最後に、宮城教育大学特任教授の菅原弘一様を講師にお招きし、「GIGAスクール環境を生かした学習者主体の授業づくり」を演題に講演をしていただきました。また、教育ICT関連企業の展示ブースが体育館に設置され、最先端の教育システムや授業づくりに役立つ教材に直接接することができ、参加者からは大好評でした。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

2024.11.19

令和6年10月21日(月) 第2回校内授業研究会(公開)

2学期に、第2回校内授業研究会を行いました。第1回と同様に、全国からお越しいただいた参加者と、参観した授業について協議しました。助言者の岐阜聖徳学園大学菅原教授からは、有識者検討会の論点整理をもとに、今後の学びの在り方や、本日の各授業のポイントなどを講演を受けました。協議会や講演会では、学校外から参加いただいた方もきめてチャットで感想やポイント、資料を全体共有し、校内研究会のDXにも取り組みました。

<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>

公開授業等の情報も リーディングDXスクールのWebから



<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>

指定校公開授業等 公開学習会（事務局主催）予定

公開授業・公開学習会予定を探す

絞り込み検索 +

並び替え 28件 / 28件 カレンダーから探す

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

開催終了

2024.06.17 終了

研修会
LDX研修会「PBL×デジタルシティズンシップ×非認知能力×生成AIに係る実践的指導」

2024.06.20

公開授業 令和6年度 第1回 京都市立南大内小学校 授業公開
京都府 / 京都市立南大内小学校
主体性・自律性の育成 ICTを活用した校務効率化 探究的な学習 クラウドを活用した対話的な教員研修
個別最適な学び 協働的な学び

2024.06.20

公開学習会 令和6年度リーディングDXスクール事業 第1回公開学習会
東京都 / リーディングDXスクール事業イベント事務局
事前申込制 授業におけるICT利活用

2024.06.24

研修会 リーディングDXスクール事業 第1回オープンセミナー
北海道 / 北海道教育委員会
ICTを活用した校務効率化 個別最適な学び 協働的な学び 授業におけるICT利活用

2024.06.25 NEW

公開学習会 R6 LDX 職員研修 生成AI 沖縄県本部高校
沖縄県 / 沖縄県立本部高等学校
情報モラル教育 生成AI 高等学校

2024.06.25

昨年度の公開学習会動画公開中

リーディングDXスクール事業 公開学習会

【実践報告】【テーマ】次年度に向けて「タイピングの指導、どうしてる？」

(令和5年3月1日実施)

発表 学校DX戦略アドバイザー合同会社ITS 代表社員(札幌市立稲穂小学校 元校長)菅野 光明 氏
発表 学校DX戦略アドバイザー足立区教育委員会 統括指導主事 西野 厚 氏
司会進行:学校DX戦略アドバイザー(沖縄県教育庁) 主任指導主事 大城 智紀 氏

- ▶ [次年度に向けて「タイピングの指導、どうしてる？」実践報告\(文部科学省/mextchannelにリンクします\)](#) 
- ▶ [合同会社ITS 代表社員\(札幌市立稲穂小学校\) 校長 菅野 光明 氏ご講演資料 \(PDF:5.1MB\)](#) 
- ▶ [足立区教育委員会 統括指導主事 西野 厚 氏ご講演資料 \(PDF:3.1MB\)](#) 
- ▶ [沖縄県教育庁 主任指導主事 大城 智紀 氏ご講演資料 \(PDF:0.9KB\)](#) 

【実践報告】【テーマ】標準仕様とクラウドを活用した教員研修の工夫と効率化の取組

(令和5年1月15日実施)

登壇者 静岡県吉田町教育委員会
司会進行:徳州大学教育学部教育学系准教授/学校DX戦略アドバイザー 佐藤 和紀 氏

- ▶ [標準仕様とクラウドを活用した教員研修の工夫と効率化の取組\(実践報告\)\(文部科学省/mextchannelにリンクします\)](#) 
- ▶ [静岡県吉田町教育委員会ご講演資料 \(PDF:1.3MB\)](#) 
- ▶ [佐藤 和紀 氏ご講演資料 \(PDF:3.9MB\)](#) 

【実践報告】【テーマ】標準仕様とクラウドを活用した校務の改善の取組

(令和5年12月18日実施)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_02453.html

【実践報告】【テーマ】学校全体で取り組むGIGA端末の活用とその工夫

(令和5年12月4日実施)

報告:熊本県高森町教育長(学校DX戦略アドバイザー)古庄 泰則 氏
司会進行:学校DX戦略アドバイザー/中村学園大学教育学部 教授・メディアセンター長 山本 朋弘 氏

- ▶ [学校全体で取り組むGIGA端末の活用とその工夫\(実践報告\)\(文部科学省/mextchannelにリンクします\)](#) 
- ▶ [熊本県高森町教育長\(学校DX戦略アドバイザー\)古庄 泰則 氏ご講演資料 \(PDF:2.1MB\)](#) 
- ▶ [学校DX戦略アドバイザー/中村学園大学教育学部 教授・メディアセンター長 山本 朋弘 氏ご講演資料 \(PDF:1.8MB\)](#) 

【第3回】リーディングDXスクール事業指定校の実践事例から学ぼう！

(令和5年8月30日実施)

- ▶ [【第3回】リーディングDXスクール事業指定校の実践事例から学ぼう！\(文部科学省/mextchannelにリンクします\)](#) 
- ▶ [新潟市立大野小学校 校長 片山 敏郎 氏ご講演資料 \(PDF:9.2MB\)](#) 
- ▶ [新潟市立鏡淵小学校 教頭 木村 杏子 氏ご講演資料 \(PDF:2.6MB\)](#) 
- ▶ [新潟市立鏡淵小学校 教務主任 齋藤 航 氏ご講演資料 \(PDF:3.6MB\)](#) 

【第2回】リーディングDXスクール事業指定校の実践事例から学ぼう！

(令和5年7月28日実施)

- ▶ [【第2回】リーディングDXスクール事業指定校の実践事例から学ぼう！\(文部科学省/mextchannelにリンクします\)](#) 
- ▶ [鹿児島市立田上小学校 教諭 寺園 麻衣 氏ご講演資料 \(PDF:5.1MB\)](#) 
- ▶ [垂水市立垂水中央中学校 教諭 西村 八郎 氏ご講演資料 \(PDF:4.3MB\)](#) 
- ▶ [鹿児島市教育委員会 学校 ICT 推進 センター 所長 木田 博 氏ご講演資料 \(PDF:1.7MB\)](#) 

【第1回】リーディングDXスクール事業指定校の実践事例から学ぼう！

(令和5年7月6日実施)

- ▶ [【第1回】リーディングDXスクール事業指定校の実践事例から学ぼう！\(文部科学省/mextchannelにリンクします\)](#) 
- ▶ [春日井市立高森台中学校 教頭 小川 晋 氏ご講演資料 \(PDF:1.4MB\)](#) 
- ▶ [春日井市立藤山台小学校 教諭 久川 慶貴 氏ご講演資料 \(PDF:4.9MB\)](#) 
- ▶ [春日井市教育委員会 教育研究所 教育DX推進専門官 水谷 年孝 氏ご講演資料 \(PDF:8.0MB\)](#) 

文科省 GIGAスクール関係情報サイト

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm

GIGAスクール構想の実現について



GIGAスクール構想とは



学校 DX 戦略アドバイザー事業
ポータルサイト

基金による1人1台端末の更新

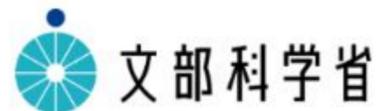


新着情報

- ▶ [\(令和6年4月26日\)公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領の一部改正について\(通知\)\(PDF:1.4MB\)](#)
- ▶ [\(令和6年4月24日\)学校のネットワークの改善について](#)

No.	リーディングDXスクール事業 指定箇所事例発表	発表者	視聴回数	更新日時
7	新潟市立大野小学校	片山敏郎氏 (R5リーディングDXスクール事業夏季学習会)	318 回視聴	11 日前
8	吉田町教育委員会 学校教育課	平井幸子氏 (R5リーディングDXスクール事業夏季学習会)	512	
9	栃木県壬生町教育委員会		479	
10	愛知県春日井市教育委員会 教育研究所		646	
11	茨城県つくば市立みどりの学園義務教育学校		298	

学校DX戦略アドバイザーの活用を！



文部科学省

<https://advisor.mext.go.jp/>

学校DX戦略アドバイザー事業

ポータルサイト

アドバイザー
(探す・依頼)

学習会／研修会情報
(探す・一覧)

サポート事業者
(探す・一覧)

文科省からの
お知らせ

GIGAスクール
動画

情報活用能力
関連サイト



学校DX戦略アドバイザー

教育現場のDX推進のための
アドバイザーによる支援を活用ください。
※ご相談・お申込みは下記よりお寄せください。

